

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010.6.5～6（名古屋工業大学）

企画セッション討議内容の記録

セッション名：都市交通における料金政策のあり方	
日付： 6月 5日（土）曜日，セッション時間：8:45～10:45	
オーガナイザー名（所属）：奥嶋政嗣（徳島大学）・秋山孝正（関西大学）	
討議内容	<p>（セッション全体）</p> <p>都市交通の料金政策は価格メカニズムを利用した交通需要マネジメントと考えられる．近年の情報通信機器の急速な進展に伴い，道路交通では ETC，公共交通では電子カードが技術的な料金政策の可能性を増大させている．本セッションでは，都市交通における料金政策のあり方として，道路交通・公共交通に関する全般的な料金政策に関する議論を行った．</p> <p>具体的には，都市高速道路の料金政策に関しては，(1)モニター実験による利用者の交通行動モデル，(2)車種別利用者均衡モデル，(3)生活行動シミュレーションモデルといったモデルによる検討方法について議論がなされた．また，都市間高速道路の料金政策に関しては，無料化あるいは休日上限 1000 円といった料金政策について，(4)観光面での経済効果定，(5)賛否意識の形成に関わる要因の構造に関して議論がなされた．一方，公共交通の料金政策に関しては，特に地方都市のバス交通における料金政策に関して，(6)休日一律 100 円バスの社会実験結果報告，(7)運行コストと路線再編を含めた検討について議論がなされた．</p>
	<p>（発表題目）「プローブパーソン調査による都市高速道路の料金調整実験時の対応行動分析」</p> <p>発表者名（所属）：塩見康博（京都大学）</p> <p>(1)利用料金の値上げに関する実験として被験者に謝金を与えることの影響，(2)Web ダイアリー調査による回答への影響，(3)利用者行動に関して日々の所要時間の変動が要因にあげられていない点などについて議論が行われた．</p>
	<p>（発表題目）「都市高速道路の車種別料金体系に関する検討」</p> <p>発表者名（所属）：井ノ口弘昭（関西大学）</p> <p>(1)両車種ともに現況より少し値上げする料金設定が最適となる理由，(2) アルゴリズムと計算時間短縮のための工夫，(3)環境を考慮した場合における大型車料金設定の考え方などについて議論が行われた．</p>
	<p>（発表題目）「高速道路料金施策評価のための生活行動シミュレーションモデルの構築」</p> <p>発表者名（所属）：岡田直也（地域未来研究所）</p> <p>(1)物流関連 OD 交通需要が固定されているなどの交通渋滞による交通需要への影響のとらえ方，(2) 所要時間の時刻変化に対応した意志決定時点の設定，(3)高速道路料金無料化時における高速道路転換モデルの適用の是非などについて議論が行われた．</p>
	<p>（発表題目）「観光を目的とした地域間交流モデルによる経済効果の計測」</p> <p>発表者名（所属）：三上千春（オリエンタルコンサルタント）</p> <p>(1)地域間交流の実績データとして抽出率の高くない全国幹線旅客純流動調査を用いる問題点，(2)高速道路料金無料化により地域間交流影響度が負となる地域が発生する点に関するモデルの構造的な理由などについて議論が行われた．</p>

(発表題目)「社会的価値と高速道路料金大幅引き下げ政策の賛否意識の関連分析」

発表者名 (所属) : 谷口綾子 (筑波大学)

利己的であるほど上限 1000 円の料金政策への賛成する傾向が高いという結果を踏まえつつ、政策立案方針に関する見解についての議論が行われた。

(発表題目)「地方都市における低料金バス運行社会実験の効果分析」

発表者名 (所属) : 奥嶋政嗣 (徳島大学)

(1)一律 100 円ではなく半額化などの他の料金設定の検討, (2)もともと利用者の極端に少ない赤字路線の状況などについて議論が行われた。

(発表題目)「地方都市コミュニティバスの料金政策に関する課題」

発表者名 (所属) : 秋山孝正 (関西大学)

(1)利用はほとんどないが将来的なモビリティの確保に不安を抱える市民意識の現状, (2)運行コスト削減のためのサービス水準低下と無料化の是非などについて議論が行われた。